

関西支部長 井上和夫(昭29年卒)

都市は「新しい価値を生む苗床」

ー次世代サイエンスシティに見る新しい都市づくりの視点ー

北ドイツニーダーザクセン州の首都ハノーバーは、人口でいえば50万人(東大阪市程度)の都市です。しかしその活力と豊かさには目を見張るものがあります。例えば世界的規模の見本市がここで開かれ、ヨーロッパ有数の商談拠点としてにぎわいを見せています。また、州立オペラ座など、長い歴史の中育まってきた文化の拠点がすばらしい芸術活動を続けています。さらに人工の湖「マッシュ湖」の

都市の魅力といえども、とかく人の規模、高層ビル群を中心とする都市機能などを連想しがちです。しかし、ハノーバーには、改めて都市の魅力とは何かを考えさせる

ようなヨットやボート遊びを楽しむ自然環境も整っています。

殊に目を引くのは、ハノーバーが数多くの医学研究機関が集積するサイエンスシティ(リサーチパーク)として、近隣都市(生物工学のプラウンシュバイク、自然科学のゲッティング)との間で、ユニークな研究のネットワーク(いわゆるリサーチトライアングル)を展開している事です。この3都市は、ちょうど京都、大阪、奈良と同程度の距離関係にあり、けいはんな学研都市のイメージに重ねられることも出来ます。

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3164

ものがあります。

私は、都市とは本来「新しい価値を生む苗床」であると思つています。活力のある都市には常に新しいパワーが注入され続けており、古いものと新しいもの、また新しいものどうしのもつ異質な価値が古くに激しくぶつかり合い、それが異なる新しい価値を生む原動力になっています。歴史を振り返っても、異質の価値の体系(それを文化と呼んでもよいでしょう)の接觸、対立する価値観の出合うところに新しい文化、文明が生まれています。都市づくりの視点には、大規模施設などのハードの建設だけでなくこののような異質な価値どうしの出会いの仕掛けが更に重要なことです。そしてハノーバーはまさにそのような点で注目に値する都市なのです。

ひるがえって今、関西ではビッグ・プロジェクトの一つ、けいはんな学研都市が、セカンド・ステージを迎える新しい整備段階に入ろうとしています。けいはんな学研都市のよう學術研究機能を基盤とする都市(いわゆるサイエンスシティ)は現在日本で約100ヶ所、世界全体では900ヶ所もあると言われています。しかし成功したもののはむしろ例外といわれるほど少なく、殊に我が国では事業採算や地域おこしを重視するあまり単純な

不動産分譲型の開発に終始するものが多いため残念なことです。サインエンスシティは一九六〇年代に生まれた新しいタイプの都市です。しかも最初から「新しい価値」を生むべく生まれた都市なのです。どうしが出合う仕掛けづくりが重要になります。

財団法人 大阪科学技術センターの学研都市部会では、「次世代リサーチパーク整備への提言」の中で、R&D(研究・開発)ステーション機能整備の重要性を提言しています。これもそのような仕掛けのひとつで、学研都市で生まれる研究成果を産業に生かすための、各種機関による資金面、技術面、基盤整備面等での支援の場を提供しようとするものです。それがステーションと呼ばれるのは、あたかも鉄道の駅が、元来列車に乗るために乗換えるための(あるいは乗り換えるための)結節点、つまり、異質の交通手段どうしのインターフェイスであつたものが、人々が集う機能を積極的に加えていくことにより、都市の核へと成長していくように、この場が研究者、産業人などの結節点となり、やがてサイエンスシティの核に成長することをイメージしているのです。

くつかあります。よく言われるよう交通基盤や日常のアメニティ施設の不足なども問題です。しかし次世代のリサーチパークとしてR&Dステーションのような直接は外から見え難いような仕掛けを育てることはこれにも増して重要です。例えば、京都大学名誉教授の樋口隆康先生(櫻原考古学研究所所長)は「シリクロード学」なるものを提倡されていますが、これは、かつて絹をはじめとする文物の交流ルートとして栄えたいわゆるシリクロードに關わる実際に広範囲の学術分野(考古学、歴史学、美術史学、言語学、宗教学、経済学、人類学、民族学、生態学、地理学、気象学、環境工学、宇宙考古学等)を包含するもので、今までの学問体系を越えた、広がりと深みのあるものとして成立することを目指しています。しかも宇宙考古学のように、人工衛星から出る電磁波を利用して遺跡を探索する事によって歴史の謎を解明しようとすると、「先端技術と古代文明との対話」により育まれた「新しい価値」探求を目指すものなのです。そこには学者のみならず芸術家、宗教家、一般市民も巻き込んだ多様な「交流」が期待されます。このようなケースにこそR&Dステーションは重要な役割を果たすのです。

関西は古来、海外からの新しい文化を取り入れながら既存の文化と融合し、新しい文化を生んで発展を続けてきた歴史をもつていています。けいはんな学研都市も、例えばシルクロード学に見られるように、異なった価値どうしが激しく出合う場となることによって、東京や大阪といった既存の都市にはない新しい価値を生み出していく苗床となるのではないでしょうか。

大学の動向

工学研究科長・工学部長に 長尾真教授が就任

曾我直弘工学研究科長・工学部長の任期満了に伴い、その後任として長尾真工学研究科教授(通信情報工学講座担当)が4月1日付で、工学研究科長・工学部長に任命された。任期は平成11年3月31日まで。

(京大広報512号)

教官の異動

平成9年4月1日付

電気工学専攻

○星野 勉助教授
電磁工学、超伝導工学担当
(佐賀大学理工学部より転任)

○引原 隆士助教授
電気システム論電力システム担当

(関西大学工学部電気工学科より
転任)

電子物性工学専攻

○川上 養一助教授
VBL担当(昇任)

○和田 俊和助教授
通信情報工学マルチメディア工学

(岡山大学工学部講師より転任)
担当
平成9年5月16日付

電気工学専攻

○島崎 真昭教授
電磁工学電磁エネルギー工学担当
(九州大学大型計算機センターより
転任)

会員寄稿

卒業以来50年

福田盛夫(昭23年卒)

大学卒業以来、半世紀が過ぎようとしている。この間、それは長かったようでもあり、短かかったようでもある。戦争終結の年に入学した我われは、物資も食料も不足しており、加えて戦後のインフレーション激化の時代に、学生生活を送つて卒業する。社会に出ても、未だ戦いの後始末も十分にはできていなかつた。

私は日本発送電株式会社へ入社。初めての職場は中国支店へ配属されて、広島に住むことになつた。広島は周知のとおり原爆の洗礼を受けた所で、当時復興というほど遠く、駅前にはヤミ市が並んでいた。やがて水力発電所に勤務となる。その後、電気事業は集中排除法の指定により、再編成のため日発と各地域の配電会社とが併合され、新たに各地域別に電力会社が発足した。それによつて、私は海を渡つて四国電力株式会社へ勤めることとなつた。昭和26年のことである。

四国の電力事情を振り返つてみると、戦後暫くは電力の供給力に余力があつたが、間もなく不足し需要家は時間停電を余儀なくされていた。電力会社が発足してから間もなく、徳島県の松尾川に水力発電所を、松山市に火力発電所を開発して以来、次々に電源の開発が進み、供給力は次第に強固になつた。ただ四国は平地が少ないのと、人家が山の中にも散在している。昭和30年代の半ばまでは未点灯の地域が残つており、そこへの供給のため苦労して配電線の布設が行われた。

このようなことも昭和40年代になると、設備の充実により供給不足の問題が無くなつた。電源も水主火從から火主水從へ、更に原子力へと移行した。ユニットの大きさも、電力発足当時の66MWから今は電源開発が建設中の1050MWへと、次第に大容量化が、進んでいる。また四国電力が保有している電源の総出力は、発足時30万KW弱であったのが、今では630万KW強と20倍を越えている。

一方、電源の増設とともに輸送設備である送電線の強化も順次進められた。特に送電容量の増加のために、電圧も20年頃の最高電圧110KVから187KVへ、更に500KVへと高くなつてゐる。勿論、先端技術を最大限に駆使して、信頼度の高い安定供給に貢献している。

さて、電力系統は規模が大きい

「100周年記念誌(仮)原稿のご依頼」

4月号のこの欄で電気工学科創設100周年記念事業についてご紹介いたしましたように、「電気工学科創設100周年記念誌(仮)」の出版を計画しております。内容は、現在の京都大学電子工学の歴史と京都大学の関わり、電気・電子工学の進展予測などを含む予定であります(300~400ページ)。

会員の皆様の在学中(研究活動、授業あるいは教室関連の行事など)の一こま、その後のお仕事の中での電気・電子工学の発展に関連あると思われます「写真」を押借し、記念誌を意義あるものに致したく思つております。ご多忙の中、暫し昔を振り返つていただき、アルバムなどを抽出していただきまして、下記宛にご送付下さいます。写真に

お任せ下さい。お願いいたします。

(担当)奥村浩士、藤田茂夫、
松波弘之、

送り先
〒606-101

京都大学工学研究科 電気系教室
100周年記念誌出版委員会

程、信頼性は勿論、運用面、経済面からも好ましい。従つて30年代の半ばから、電力各社間の相互協調のため広域運営が始まつた。その連係もなかつたので、周波数調整には随分苦労があつた。具体的には、主要な発電所で運転員が手動でガバナーを調整して、周波数を一定に保つっていた。だが小さい系統のために、需要が一寸変わつてもこれを正常に保つには、気を緩めることはできなかつた。そのため、AFC(周波数調整装置)をわが国で初めて開発設置したのは四国電力である。

春に明石海峡大橋が開通し、更に明後年には尾道今治間が橋で結ばれ、いよいよ本四三橋時代が訪れるが、送電線はこれより遙かに早く連係されているのである。

「京都と鴨川」（続き）

森井清二（昭24年卒）

今回は、秀吉の時代の京都改造に話を移したいと思います。

分され、7つの口は洛中への出入
口ではなく洛中から全国各地へ延
びる主要道路の口となつており、
秀吉の天下へ号令する気持ちを表
しております。東海道の粟田口、

居が邪魔になつて仕様がない。人々が勝手に各所で御土居をこわし始め、急速に衰退して行く事になります。日本が城壁都市を持たなかつた理由は何か国民性に起因

動でガバナーを調整して、周波数を一定に保っていた。だが小さい系統のために、需要が一寸変わつてもこれを正常に保つには、気を

緩めることはできなかつた。そのため、AFC(周波数調整装置)をわが国で初めて開発設置したのは、四国電力である。

また広域運営の一環として、本州との連係が計画され、昭和33年には関西電力の淡路島と、更に昭和37年には中国電力の広島と、そ

に技術面については未知の事項に對して、連係されている各社が共通の問題意識を持つて、度々激しい討議を繰り返しながら、改良が行われた。今思い起こしてみると、その發展の軌跡の素晴らしさ、そしてそれに携わったことに誇りを感じる。

秀吉は政権の座につくと大々的な京都改造に着手しました。先ず禁裏を新築同様に大改修し、公家武家、庶民、寺院の区画整理、聚楽台、方広寺大仏の造立と矢継ぎばやに実施して参りましたが、これら一連の京都改造事業のしめくくりとして御土居を築造しました水に直接関係するのはこの御土居でありまして、一五九〇～一五九年(天正18～19年)の事業であります。当初は堤とか京廻りの堤と

伏見街道の伏見口、山陰道の丹波口、西国街道の鳥羽口等、地名は今もそのままであります。只、この御土居はそうした政治的、軍事的意味だけではなく、実用上は洪水対策としての役割が遙かに大きかったわけで、その御蔭で洛中は鴨川、紙屋川の氾濫から完全に守られる事になりました。御土居の遺跡は鴨川の上流や駒ヶ峰、平野神社の近傍に極く一部残つておますが、全国一長いと言われる

する様に思うのですが、どなたかに
教えて頂きたいと思つております
最後に、明治の大土木工事琵琶
湖疎水にふれておきます。

国 の歳費が七〇〇〇万円、府の
歳費が50～60万円の時代に125万円
と言う大金をかけ疎水工事を実施
したのは、京都市民の京都再生に
かけた熱情であつたと思います。
疎水工事と蹴上水力発電の物語は
京大電気出身の方々は良く御存知
のことと思いますので割愛致します

それぞれ瀬戸内海を架空線で結ぶことができた。これによつて、事故時に電力の応援融通を行うことができて信頼度は格段に向上し、また大容量電源の開発が可能となり更に相互間の供給力を相補うことによる経済的運用にも寄与できている。なお現在は、徳島県で橘湾火力の電源開発が行われてゐるがそこから和歌山まで海底ケーブルで繋ぐ工事が進んでいる。

本州四国間の橋は、9年前に建設された瀬戸大橋に次いで、明年

私の同級生も、電力関係や電機メーカー、またそれに関係する企業へ就職した人が多かった。勿論それ以外の人も各方面に散らばつて活躍し、今までに幾多の社会にに対する業績を残してきた。そして今、お互いに過去を懐かしむような年令になつた。来年は卒業してから満50周年になる。誰からともなく、来年春に京都で盛大に同窓会をしようではないかと話が纏まつている。卒業してから一度も会っていない人もいる。皆どんな顔

か呼ばれたものでありますて、京都の町をとり囲み全長 22.5 km 、東は鴨川、北は鷹ヶ峰、西は紙屋川、南は九条を限りとした城壁であります。現存する一部と古絵図等から察しますと、高さ約 3 m 、基底部は厚さ 9 m 、これに場所で長短はありますが幅 $4\sim 10\text{ m}$ の濠を随伴し、堤の上には竹を植えております。即ち先ず堀をほつてその土で堤を築き、その上に竹を植えて竹の根で堤を固めた構造になつております。そしてこの囲みに 7 つ

JR京都駅一番プラットホームの石畳の下に、御土居の南限の土畠の跡がその埋まっている事を知る人は少ないと思います。ところで、中国の都市は総て城壁で囲まれているのに、これを手本に作つたと云いながら日本で城壁を持つ都市は、この秀吉の改造京都唯一であります。異民族に常におびやかされた中国と同族民族の日本との差と良く言われますが私はそれだけではない様に思いました。江戸時代に入ると東山山麓に

が、疎水はその主目的であつた水路交通と近代工業の発展よりも、むしろ付帯事業と考えていた水力発電で都市計画が大きく変わる事になります。疎水事業は京都市にまかされていましたが、電気供給事業と水車事業と運河事業から構成されていました。一八九三年（明治26年）で既に電気事業收入は、他の二つの事業収入の何れよりも上廻り、一九〇三年（明治36年）には電気事業収入が85%、水車事業収入が10%、運輸事業収入が5%

になつてゐるだろうか、今から樂しみである。

の口を設け、一旦緩急ある時はこの口を閉じて洛中を防衛するとい

社寺が續々と建てられ、また、四

となつております。

京都の電気の歴史は、一八八三年(明治16年)4月1日、「祇園一力」西角に移動発電機によりアーケードが点灯された時より始まります。それから5年後に京都電燈が発足するわけですが、石炭を燃料とする火力発電でしたのでかなり高価になりました。疎水の水を利用了して蹴上水力発電所の電気はこれより大分安く、これを受電する事によって京都電燈の料金は、他の地区の電力会社の料金よりも割安になりました。

この安い電気を使って電車を走らそうという事になり、一八九五年(明治28年)京都電氣鉄道が開業し、今のがランドホテルの近くの塩小路から伏見油掛間に日本最初の電車が走る事になります。引き続いて塩小路から木屋町二条を経て南禅寺迄の木屋町線が開通し、折から遷都一一〇〇年記念行事の一環として開催された第4回内国勧業博覧会に客を運び、動く展示会として市民をアツと言わせたものです。電車が走るとなるとそれ迄の京都の道巾ではどうにもならないので、メイン道路は全部拡幅する事になりました。四条通りも元々幅員3間足らず、つまり5m余りの道で八坂神社の西楼門から南座の手前の繩手迄お茶屋が軒をする事になりました。四条通りもつらね、網行灯をかかけた「一力」、

その向かいの「井筒屋」等、赤垂の大茶屋が繁昌していたそうですが、明治27年に北側が削られ5年には12間の大通りに拡張され電車が通る様になりました。

明治の始めに、廢仏毀釈に伴う上知令により官有とされた臨済宗大本山建仁寺の寺領を芸技組合、つまり検番が払い下げを受け、女紅場や歌舞練場を造った場所へ段々と四条通り両側のお茶屋が移ってきて今の花見小路が形成されたわけです。明治5年に人身売買が禁止になり、遊女は籠の鳥から解放されました。が、彼女等にはたつきの道がありませんでした。当芸技組合を取り仕切っていた「一力」の当主が知事に頼んで、彼女等が手に職をつけ生活出来る様、支援する為の養蚕、製茶、機織、歌舞音曲を教える場所をつくつたのが女紅場の始まりです。私の祖母は94才迄長生きしておりましたので、若い頃の花見小路の様子を話してくれておりましたが、建仁寺の境内の続きで茶畑、桑畑、竹藪しかなく夜一人で歩ける様な所ではなかったと申しておりました少しこじつければ、花見小路が出来たのは電気のせいと言えるかも判りません。

平成元年

伊藤篤(平元年卒)

平成元年

伊藤 篤(平元年卒)

平成の代も早いもので9年目に
入りました。私も社会人になつて
9年目を迎えておれます。

私は生まれも育ちも宮城県は仙
台市。勤務地もずっと仙台市であ
ります。実は他に土地勘のある場
所は京都だけという東北地方では
珍しい人間でしょうか。

中学校時代から何となく京都の
街に憧れておりました。(京都大
学にはありません。その存在を
知るのはずっと後のことですし。)
まだ新幹線が開通していなかつた
仙台から見れば遙か遠くで外国の
ようすら思つていたものです。
千年の都、舞妓さんや、金閣、銀
閣、嵐山に御所。漠然とした魅力
を感じておりましたが、高校生に
なれば修学旅行で訪れることが出
来るものと思つていました。

ところが、よせばいいのに、私
が行く年に限つて高校の先生達は
何を思ったか旅行先を4コースに
分けてしまいました。京都に奈良
北海道、そして何と伊豆大島にで
す。(台風の季節なのに。)

もちろん、例年通りの京都と奈
良に希望者は殺到し、他の二コー
スには抽選に漏れた人達が嫌々な
がら行くことに。私は今だに宝く

じに当たらない人間ですが、この時も、果して一番人気薄の伊豆大島コースに行くことになりました。寄席見物に変更となりました。寄席の芸人達は皆口を揃えて「今日はお客さんが多いですねえ。」と言つっていましたが、ネタは本当に言つまらなかつたのです。

その恨みからか、大学生活はどうしても京都で送つてやろうといふ思いが溜まりに溜まつてしましました。(こういう経験でもしないと仙台から京都の学校へ通おうとする人間はいません。せいぜい関東までしか行きません)晴れて京都で学生生活を送れるようになります。神社仏閣すべてお参りしてやろうと張り切つておりますから、例の古都税問題で、皆拝観停止。

その時の街は随分と寂しくなつたような気がします。ところで、丁学部に入ったものの、教養課程の2年間は本当に講義は退屈で、何と保健体育が必修だったのには啞然としました。勿体ない全く文部省は何を考えているのやらと思つたものです。おまけに実験設備の古くて貧弱なこと、これで本当によく日本はハイテクがどうのこうのと言つていられるな、だから戦争にも負けるし、いつまで経つても米国を越えられないのだなど若気

の至りで血氣にはやつたものです。就職と卒業が決まり、四年間楽しませていただいた、京都の街を進んでいた頃で海外に卒業旅行に行くのが大流行していましたが、私の卒業旅行の行先は東寺でした。荷物を駅のロッカーに預け、独り境内を訪ねました。中の茶店で茶をすすつて4年間の生活に思いを巡らしていると、良い塩梅に小雨が降ってきて、店のおかみさんと「旅行ですか。」「いいえ、今日を最後に故郷に戻るんです。」と会話を交したことが今でも思い出されます。

こういう気持ちになつたものです。

これは冗談ですが、洛友会東北

支部では新入会員を募集しています。

皆さんのお知り合いで、卒業

後、東北地方で働きたいという方

がいらっしゃいましたら、是非御

一報を。私以降、新入会員が入っ

ておりません。また合わせて転入

会員の募集も行っています。各

企業の東北支社が皆さんを待つて

います。(と、思います。)

これで京都の街との縁が切れた
かなと思いきや、次の年、私は新
婚旅行で再び京都を訪れるこ
なるのです。研究室の皆さん。そ
の節はお世話になりました。

今、電気事業は、需要が減つて
いるわけでもないのに、厳しい時
代を迎えてます。昔は、国の振
興のために数多くの電灯会社が統
合されたのに、今では、分割が囁
かれています。バブル期の事務系
の人間達が残したツケを技術系の
人間が尻拭いするという、いつも
の構図に諦めつづく。(失礼言い
過ぎました)自分達の子孫のため
に、良い日本であるように一生懸
命、がんばりたいと思つてます。

疲れたら、また京都の街に慰め
てもらいに行きます。

お詫び

「戦中派の学生生活(V)」は都
合により休みました。

(事務局)

室を代表して、教授、助教授の交
換、洛友会役員改選通知欄参考

いての動きについての紹介の後、
来春、情報学研究科の新設につ
替、今春の卒業生の就職状況、電
気工学科創設百周年記念事業につ
いてのお話をいただいた。

閉会、総会終了のあと恒例の懇親
会が行われた。

(事務局記)



総会報告

洛友会総会

平成9年度洛友会総会は、5月

31日(土)午後4時25分より、東京目

黒の八芳園において開催された。

東京支部総会に引き続いて開催さ

れ、約70人が出席した。

総会は先ず大谷会長に代わって

近藤副会長が挨拶にたたれ、洛友

会会員にも長寿者が増え、名古屋

支部の本多氏が本年百才を迎えら

れた他、各支部でも近く百才にな

られる方々の紹介や、電気工学科

創設百周年を来年に控えての募金

活動、年会費納付、名簿発行に関

して広告掲載等各支部に一層の協

力要請が行なわれた。つづいて議

題の審議に入り、事務局より平成

8年度事業報告並びに収支決算報

告(別掲資料1)の報告の後承認さ

れ、平成9年度事業計画案並びに

9年度予算案についても原案説明

の後、承認された。(別掲資料2)

また、本年度は役員の任期満了

にともない役員の改選案を審議さ

れ原案のとおり承認された。(別

資料2 平成9年度収支予算

(平成9年4月1日~平成10年3月31日)

(単位:円)

科 目	予 算 額	平成8年度決算額	備 考
会 費(学 部)	9,800,000	9,485,000	3,265名分(@ 3,000円/人)
(講習所)	210,000	243,000	70名分(〃)
預 金 利 子	50,000	6,333	
広 告 掲 載 料	4,740,000	140,000	H 7年と同額(会報分140千円含む)
雜 収 入	10,000	4,000	
取 入 小 計	15,810,000	9,878,333	H 7年度決算額 15,179,060
前 年 度 繰 越 金	10,159,188	12,022,467	
合 計	25,969,188	21,900,800	

資料1 平成8年度収支決算

(平成8年4月1日~平成9年3月31日)

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会 費(学 部)	10,110,000	9,485,000	3,162名分(@ 3,000円/人)
(講習所)	240,000	243,000	81名分(〃)
預 金 利 子	50,000	6,333	
広 告 掲 載 料	140,000	140,000	新年号、14社
雜 収 入	10,000	4,000	
取 入 小 計	10,550,000	9,878,333	
前 年 度 繰 越 金	12,022,467	12,022,467	
合 計	22,572,467	21,900,800	

支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
名 簿 編 集 費	0	0	
電 算 機 处 理 費	0	0	
印 刷 費	0	0	
發 送 費	0	0	
會 報 編 集 費	0	0	
印 刷 費	1,350,000	1,642,850	毎号5,500部(A4判)
發 送 費	2,100,000	2,104,101	〃
備 品 費	0	0	年間4回発行
通 信 費	150,000	114,385	
會 員 名 簿 管 理 費	700,000	677,802	計算機処理費
合 会 費	350,000	400,198	役員会費(含む旅費)
總 会 費	300,000	300,000	
集 金 費	200,000	173,742	振込手数料等
消 耗 費	300,000	427,626	振込用紙、封筒等
旅 費	400,000	293,300	支部総会出席旅費等
懇 話 会 補 助 費	250,000	250,000	
支 部 交 付 金	3,093,248	3,093,248	
事 務 人 件 費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雜 費	0	64,360	御祝品代金
予 備 費	156,752	0	
假 払 金	0	1,000,000	百周年記念事業費
支 出 小 計	10,550,000	11,741,612	
次 年 度 繰 越 金	12,022,467	10,159,188	
合 計	22,572,467	21,900,800	

科 目	予 算 額	平成8年度決算額	備 考
名 簿 編 集 費	0	0	H 7年度 0円
電 算 機 处 理 費	550,000	0	〃 574,487 4,600部
印 刷 費	5,500,000	0	〃 5,657,172
發 送 費	1,350,000	0	〃 1,426,726
會 報 編 集 費	0	0	合計 7,658,755円(@ 1,665円/部)
印 刷 費	1,650,000	1,642,850	
發 送 費	2,100,000	2,104,101	毎号5,500(A4判)(年4回発行)
備 品 費	0	0	
通 信 費	150,000	114,385	
會 員 名 簿 管 理 費	700,000	677,802	計算機処理費
合 会 費	350,000	400,198	役員会費(含む旅費)
總 会 費	300,000	300,000	
集 金 費	200,000	173,742	振込手数料等
消 耗 費	350,000	427,626	振込用紙、封筒等
旅 費	400,000	293,300	支部総会出席旅費等
懇 話 会 補 助 金	250,000	250,000	
支 部 交 付 金	0	3,093,248	
事 務 人 件 費	1,200,000	1,200,000	応研謝礼
雜 費	0	64,360	御祝品代金
予 備 費	200,000	0	
假 払 金	1,000,000	1,000,000	百周年記念事業費
支 出 小 計	15,250,000	11,741,612	
次 年 度 繰 越 金	10,719,188	10,159,188	
合 計	25,969,188	21,900,800	

平成9年5月9日、応用科学研究所において、領収書、帳簿等関係書類を慎重に監査し、支出及び決算が適正であると認めました。

常任幹事 阿陪 稔

洛友会役員改選通知

5月31日、本部総会において左記のとおり改選された。退任(退)および新任(新)を含め役員名は次のとおりです。(任期は規約により2年間)

会長	昭13
副会長	昭18
顧問	昭19
	昭22
	昭33
大谷 泰之(留)	昭13
近藤 文治(留)	昭18
大嶋 幸一(留)	昭19
池上 文夫(留)	昭22
田丸 啓吉(新・教室)	昭33
小倉 久直(退・教室)	昭18
芦原 義重(留)	昭19
本多 静雄(留)	昭22
河本 勝寿(留)	昭33
上西 亮二(留)	昭13
阿部 要(留)	昭18
金井久兵衛(逝去)	昭5
松尾 三郎(留)	昭13
木村 磐根(留)	昭30
近藤 文治(留)	昭18
上田 院亮(新・教室)	昭34
松波 弘之(留・教室)	昭37
中村 俊夫(留)	昭14
三国文治郎(逝去)	昭31
安陪 稔(退・教室)	昭16
○推薦 松本 博新	昭31

(事務局)

推薦会員のお知らせ

平成9年度役員会において、つぎの方々が推薦会員として承認されました。

幹事(○印は常任幹事)
 ○昭18 木村 磐根(留)
 ○昭30 近藤 文治(留)
 ○昭37 松波 弘之(留・教室)
 ○昭34 上田 院亮(新・教室)
 ○昭14 三国文治郎(逝去)
 ○昭31 安陪 稔(退・教室)
 ○昭16 推薦 松本 博新
 ○昭31 奄陪 稔(退・教室)

北海道支部総会

支部だより

去る5月10日(土)に、札幌市内の「きょうさいサロン」で、第23回の支部総会を開催した。池内義則支部長以下の役員に変更なし。

支部会員16名のうち出席者10名

が3時間にわたった。

中国支部総会

今回の出席は、右記のうち西野の「きょうさいサロン」で、第23回の支部総会を開催した。池内義則支部長以下の役員に変更なし。

幹事 芝山龍一(昭28卒)記
 年度予算案の説明が行われ、満場一致で承認されました。続いて会員の異動状況、支部活動状況の報告が行われました。

次に、近藤副会長から本部の近況や百周年記念行事の計画について、荒木先生から教室の最近の状況や研究活動の紹介等について報



中山、土橋、内藤、西野の一組であったが、本年は8月のお盆休みの期間にプレーすることに決め、より多くの参加を期待している。

友会中国支部総会が開催されました。

議事が滞りなく終了し、別室で写真撮影の後、ホテルの最上階にて懇親会に移りました。久々に顔

も合わせた参加者の間では色々な話題が出され、楽しい一時を過ごしました。

午後8時過ぎ、次の再会を誓つて散会となりました。

俵裕治(平2年卒)記

九州支部総会

平成9年5月23日(金)、博多全日空ホテルにおいて、平成9年度洛友会九州支部総会が開催されました。



中国支部総会 H9.5.16 於 広島全日空ホテル

当日は、本部から近藤文治先生、教室から田丸啓吉先生をお迎えし、支部からは25名の会員が参加しま

した。

総会は、九州支部では恒例となつた二部形式にて行われました。

第一部の立食パーティーは会員がお互いに自由な会話を楽しめるようとの配慮で催されているものですが、近藤先生、田丸先生を囲んでの歓談、支部の会員同士の交歓などがなごやかに行われました。

会食形式の第二部では、近藤先生からユーモアあふれるご挨拶を頂くとともに大きな変革を迎えるとしている洛友会の状況についてお話しいただきました。

また、田丸先生からは、電気系教室の近況と将来の構想についてご報告を承りました。

さらに、平成8年度の活動実績・会計報告や平成9年度の活動計画についての提案があり、いずれも承認されました。

これらの合間に、修士課程への進学者が大変多い現状について先生方から興味深いお話をうかがつたり、今春社会人になつたばかりの新会員一人による自己紹介があつという間に予定の時間が過ぎました。

最後に出席者全員の記念写真を撮り、次回の再会を誓つたところで散会となりました。

榎本孝史(昭63年卒)記

平成9年度東京支部

評議員会・総会報告

去る5月31日(土)に、例年通り目黒八芳園にて、東京支部の評議員会、支部総会を実施しました。

今年度は、支部総会に引き続いて本部総会も開催されました。



予算案説明及び次期役員候補紹介が行われ、承認されました。

支部総会では、萱島支部長の挨拶に始まり、平成8年度の予算・決算報告等が審議・承認されました。引き続き平成9年度の新役員を選出し、近藤新支部長の挨拶に続いて平成9年度の行事計画・予算案が審議・承認されました。

その後、平成8年度に米寿・喜寿を迎えた方々(米寿7名、喜寿13名)のお祝いを行いました。支部総会の後、本部総会が行われ、近藤副会長のお話の中で、会費納入率が毎年微減しており、とうとう49%になり、50%を下回ってしまったという現状のご説明があり、各クラス幹事を中心として、

特に昭和40年代以降の現役の会員を中心に、会費納入率の向上を図るために抜本的な取り組みが必要であるというお話がありました。

田丸教授からは、電気系教室の現況として、情報学研究科新設のための概算要求を出された話、電気系学科の百周年記念事業として、会員各位からの寄付を募るお話がありました。

田丸教授からは、電気系教室の現況として、情報学研究科新設のための概算要求を出された話、電気系学科の百周年記念事業として、会員各位からの寄付を募るお話がありました。

本部総会の後、恒例の懇親パーティーは近藤新支部長の挨拶で始まりました。あちこちで、久しぶりに再会した会員の方たちや、若い人と古参会員を交えた話の輪が広がり和やかな一時を過ごし、最

後は三橋新副支部長の万歳三唱ので散会しました。

総務幹事永井啓喜(昭53年卒)記

科の再編の状況や、電気工学科創設100周年記念事業などについてご紹介を頂き、持参して頂いた京大

東京支部役員改選通知

平成9年度、東京支部総会にて役員の改選が行なわれましたのでお知らせ致します。

記

支 部 長	昭 30	萱 島 興二(退)
副 支 部 長	昭 31	近 藤 光 洋(新)
副 支 部 長	昭 32	三 橋 堧(新)
副 支 部 長	昭 52	七 原 俊 也(退)
副 支 部 長	昭 53	永 井 啓 喜(新)
副 支 部 長	昭 54	伊 藤 八 大(新)
会 計 幹 事		

洛友会四国支部総会

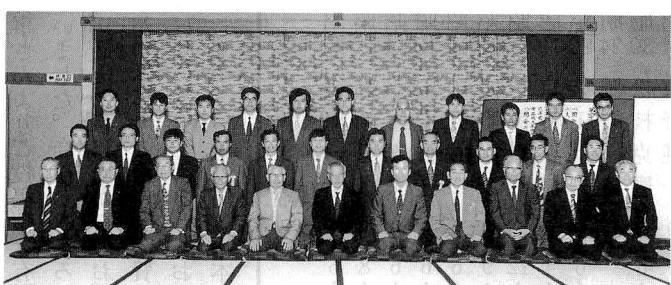
6月6日(金)、高松市内の料亭「新常磐」において第42回洛友会四国支部総会が開催された。本部から近藤副会長、教室から吉田教授のご出席を頂き、四国内外からは33名の会員が集まつた。

総会は近藤支部長の挨拶で始まり、支部活動をますます元気にやつていただきたい等の話があつた。

次に近藤副会長よりご挨拶を頂

き、本年は京都大学が創立100周年を迎え、来年には電気工学科が創設100周年を迎えることや、洛友会員の先輩が白寿を迎えたことなど

また、吉田先生からは工学研究



第42回 四国支部総会 H.9.6.6 於新常磐

続いて、会報・会計報告、予算案審議が行われた。会務報告では永野由二氏(昭16年卒)が亡くなられたこと、転出入により支部会員数が4名減少したこと、また、船越孝夫氏(昭22年卒)が本年春に勲三等瑞宝章を受章されたことなどが紹介された。そして、今回支部総会初参加となる西野克志氏(平2年卒)から自己紹介があつた。会計報告、予算案についても審議はスムーズに進行し、満場一致で承認された。

引き続き懇親会に移り、先生方との歓談や久しぶりに顔を合わせた先輩・友人と酒を酌み交わしながらの談笑など、楽しいひとときを過ごした。また歓談の途中、吉田先生が撮られた大学周辺のデジタルカメラ写真映像がTV画面で紹介された際には、大学校舎等の変貌に驚きながらも、皆がそれぞれの記憶を思い起こすことができた。最後に、全員が肩を組み、恒例となつた「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を締め括った。

植原 宣和（昭63年卒）記

関西支部総会

なつた「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を締め括つた。植原 宣和（昭63年卒）記

関西支部総会

関西支部の平成9年度総会を6月14日（土）に、ホテル京阪京都にて開催しました。

介された際には、大学校舎等の変貌に驚きながらも、皆がそれぞれの記憶を思い起こすことができた。最後に、全員が肩を組み、恒例と

引き続^きき懇親会に移り、先生方との歓談や久しぶりに顔を合わせた先輩・友人と酒を酌み交わしながらの談笑など、楽しいひとときを過ごした。また歓談の途中、吉田先生が撮られた大学周辺のデジタルカメラ写真映像がTV画面で紹介された際には、大学校舎等の変

総務幹事 昭44 福森 孝司
会計幹事 昭56 則竹 博安
なお、関西支部恒例の秋の見学会は10月19日(日)に、今年度幹事会社の近畿日本鉄道(株)の団体専用列車により志摩スペイン村を訪れる

頂き、5月のさわやかな青空のもと、総員30名（シニアの部8名）で競技が行われました。

優勝	柴田 宏(26年卒)
2位	阪上 宏(28年卒)
3位	戸所義博(45年卒)
(シニアの部)	
優勝	柴田 宏(26年卒)
2位	阪上 宏(28年卒)
3位	鷺見禎彦(28年卒)

その後、本部近藤副会長、木村常任幹事、教室の田村先生から、それぞれ、大谷会長の近況、会費納入状況、教室の現況、電気工学科創設100周年事業についての報告を頂きました。

恒例の総会後の懇親会は、近藤

第68回 平成9年10月5日(日)
於 武庫ノ台ゴルフコース
多数のご参加をお待ちしております。

月14日(土)に、ホテル京阪京都にて開催しました。

度の卒業生まで幅広く60名の参加をいただきました。

・前年度の事業、決算報告案

について審議を頂き、いずれも満場一致にて原案を承認頂きました

平成9年度の関西支部新役員には
次の各氏が選任されました。

支部長 昭29
副支部長 昭31
安井 井上 和夫
貞三

第67回 関西支部

第67回関西支部ゴルフ競技会が平成9年5月25日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

同窓会だより

(昭十会)

入学65周年記念会
(昭)

41.8821
岡直人(H3年卒)

の者は現在其の住所が関東地区10名関西地区9名となつてゐるもの、記念会合はやはり関西となり、関東地区での実施は4回位の記憶しかありません。

最近の会合は以前のようなゴルフ、観光、見学等を敬遠して専ら室内の歓談、和合、会食が主となり、2～3時間の集合に終るようになりました。

の者は現在其の住所が関東地区10名関西地区9名となつてゐるもの、記念会合はやはり関西となり、関東地区での実施は4回位の記憶しかありません。

京都大学115周年記念会 H25.5.12 於 京大京都大学

編集後記

	講			講			講			講		
	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
平昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
3	54	30	24	22	19	17	16	12	12	11	12	9
伊	東	松	岡	柴	京	中	永	中	田	小	高	篠
藤	野	枝	崎	田	極	澤	野	野	中	野	崎	原
純	克	福	清	由	壯	益	春	喜	一	恭	久	一
明	一	磨	清	夫	晃	麿	二	二	造	夫	久	一
9	9	9	9	9	8	8	9	9	9	9	8	9
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
3	1	6	6	4	12	9	6	6	6	6	8	6
12	1	13	9	10	24	22	18	6	5	6	9	9

暑中お見舞い申しあげます。梅雨明けとともに暑さ厳しい夏本番となります。会員の皆様には各界でご活躍のことと存じます。祇園祭りの賑わいも一段落、静かな京都の夏の町並みに戻りました。本号の巻頭言には、井上和夫関西支部長様より頂戴したのをはじめ、各支部総会の模様について支部幹事さんよりご投稿頂き有難うございました。今後ともよろしく、また、最後に事務局からのお願いですが、本年度の洛友会会費の振込みについても、よろしくお願ひいたします。事務局 松本 博